



かけはし



ライバル(好敵手)をつくろう！

ともだち
パワー

◆「風立ちぬ」や「永遠の0」という映画に零式戦闘機いわゆる『零戦』が登場します。太平洋戦争中、どの国にも負けない性能を持った戦闘機として海軍によって創り出された日本独自の戦闘機です。一方、映画にはあまり登場しませんでした。もう一つ一式戦闘機いわゆる『隼』という戦闘機があります。同じ頃陸軍によって創り出された日本独自の戦闘機です。零式戦闘機と一式戦闘機という名前が示すように、より性能の優れた戦闘機を創ろうと互いに技を競い合っていたと考えられます。ただ、その技術を戦争のために使わなければならなかったというのは悲しいことです。

◆やがて戦争が終わります。互いに競い合って磨き上げてきた技術は、戦争とともに葬り去られてしまったのでしょうか？ いいえ、そうではありません。『零戦』を創った技術はやがて航空機づくりへと、『隼』を創った技術はやがて宇宙ロケットや人工衛星をつくる技術へと引き継がれていったのです。何年か前に奇跡的に地球に生還した小惑星探査機「はやぶさ」の名前を覚えている人も多いのではないのでしょうか。互いに競い合った技術は、現在も競い合いながら科学技術のさらなる発展をめざしているのです。

◆互いに競い合うことで、互いに高め合う。これは、いつの世でも大切です。『切磋琢磨』という言葉があります。「骨は切(き)り、象牙は磋(そ)ぎ、玉は琢(たく)ち、石は磨(も)く」といった精細な加工を施すことから、互いに探究、研鑽(けんさん)し合うことを意味します。つまり、学問をし、徳を修めるために努力に努力を重ねること、また友人どうしで励まし合い競い合って向上することが大切だということです。

◆互いに励まし合い競い合って、互いを向上させることができる存在、それがライバル(好敵手)です。(互いに蹴落とし合うのはライバルとは言いません。)子どもたちにも、ぜひそんなライバルをつくってほしいと思います。かけ算九九を早く覚える、漢字を一字でも多く覚える、50m走のタイムを少しでも縮めるなどなど、小さなことでもいいのです。ライバルがいることで学習意欲や活動意欲が高まり、互いに競い合いながら自分の力を高めることができます。そうしたことを積み重ねて、将来、「素晴らしいライバルの存在があったからこそ自分が成長できた。」と言えるような人になってほしいと思います。

